

報道関係者各位

2018年1月13日

一般社団法人 アート東京

一般社団法人 アート東京
「日本のアート産業に関する市場調査 2017」を実施
～日本の美術品市場規模は前年比微増の推計 2,437 億円～

日本最大級の国際的なアート見本市「アートフェア東京」を主催する「一般社団法人 アート東京（以下「アート東京」）は、2017 年秋に「日本のアート産業に関する市場調査 2017」を約 2 万人を対象に実施し、政府の人口統計に合わせて推計した結果から日本全体の美術品市場規模を 2,437 億円と推計しました。

グローバルな美術品市場の状況は、主に欧米のアートギャラリーやオークションセールスの落札額の合計値等の情報を中心に推計され、欧米の調査機関によって発信されています。世界最大のアートフェア「アートバーゼル」とスイスの大手銀行「UBS グループ」が 2017 年 3 月に発表したレポートでは、世界の美術品市場の状況は、2014 年に過去最高の 682 億ドル（約 7 兆 6,000 億円）に達したが、その後 15 年に 7%減少、さらに 16 年には 11%減少し 566 億ドル（約 6 兆 3,000 億円）となりました（出所:「The Art Market 2017」Art Basel and UBS）。

今回、実施した「日本のアート産業に関する市場調査 2017」では、日本の美術品市場規模は 2016 年実施の同調査の 2,431 億円から微増の 2,437 億円と推計しました。日本の美術品市場は、世界のマーケット規模と比較すると大きくないものの、古美術・工芸、日本画、洋画から現代アートに至るまで多岐にわたるジャンルのアート市場で支えられており、販売チャネルではギャラリーの次に、位置する百貨店市場が今年は好調となり、2016 年までのグローバル市場が減少傾向のなかで規模を維持しています。

アート東京は、「アートフェア東京」を開催している幅広いネットワークとノウハウを活かして、日本からアート産業に関する客観的な指標を国内外に公表することが重要と考え、今後も、日本のアート産業の実態に即した形で調査・分析を実施していきます。

本調査の基本設計

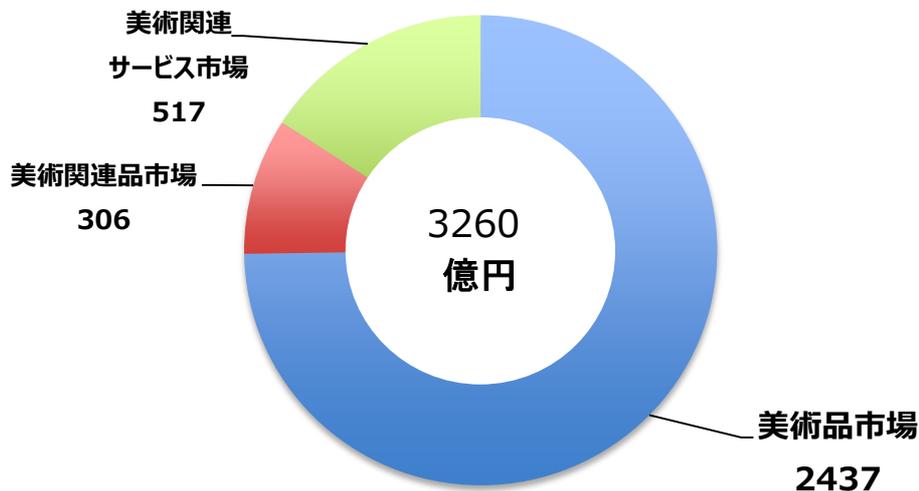
調査方法	インターネットアンケート会社が契約するモニターを対象としたアンケート調査
調査時期	1 次調査: 10 月 24 日(火)~10 月 26 日(木) 2 次調査: 10 月 27 日(金)~10 月 31 日(火)
調査対象	1 次調査: 政府統計を基に、性・年代、職務状況(有職/無職)、年収(有職者は個人所得、無職者は世帯所得)を日本全体の分布に近い形で割付 2 次調査: セグメント A(コレクター): 30 代・40 代で過去 3 年間に美術品を 10 万円以上購入 セグメント B(愛好家): 30 代・40 代の年間の博物館・美術館訪問回数が 4 回(3 ヶ月に 1 回)以上 & 美術品購入経験なし
有効サンプル数	1 次調査: 21,436 サンプル 2 次調査: セグメント A: 248 サンプル、セグメント B: 233 サンプル
調査項目	・美術品・美術関連品の購入経験 ・ジャンル別・チャネル別の美術品・美術関連品の購入額など ・コレクターとアート愛好家の意識調査の差異など

美術品、美術関連品、美術関連サービスの市場規模

アート産業に関する市場規模として、古美術や洋画・彫刻・現代美術などの「①美術品市場」(2,437 億円)、グッズやカタログなどの「②美術関連品市場」(306 億円)、美術館入場料や日本各地で開催される芸術祭消費額を含む「③美術関連サービス市場」(517 億円)の3つの市場を対象とし、その総額は推計 3,260 億円となりました。

アート産業に関する市場規模の全体像

(単位：億円)(n=21,436)



市場の分類	推計の対象	推計の手法
①美術品市場	国内在住者による以下のチャネルでの以下の商品(美術品)の購入 ・画廊・ギャラリー、百貨店、アートフェア、美術品のオークション、ミュージアムショップ、インターネットサイト、作家からの直接購入 ・美術品(日本画、洋画、彫刻、版画、現代美術、写真、映像作品、陶芸、工芸、書、掛軸・屏風)	本調査 アンケート
②美術関連品市場	国内在住者による以下の商品(美術関連品)の購入 ・著名な絵画を複製したポスター・ポストカード ・展覧会の図録・カタログ等の美術書 ・著名な絵画・彫刻等をモチーフとしたグッズ	
③美術関連サービス市場	・国内在住者による美術館・博物館への訪問に係る入場料の支払い ・主要なアートプロジェクトへの訪問に係る消費	各種報告書

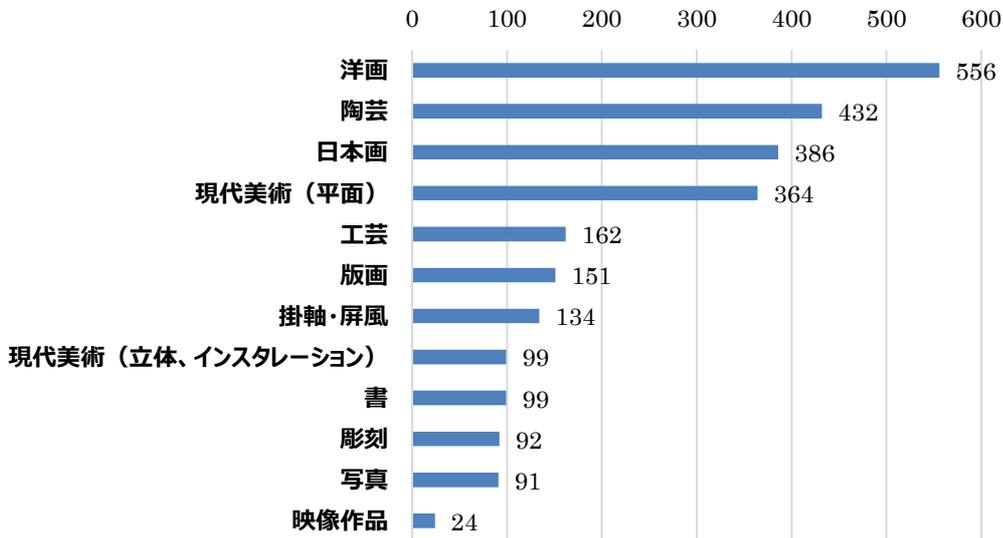
出所)「日本のアート産業に関する市場調査 2017」(一社)アート東京・(一社)芸術と創造

多様なジャンルの美術品でなりたつ日本の美術品市場

ジャンル別の美術品の市場規模は、洋画(556億円)、陶芸(432億円)、日本画(386億円)に現代美術(平面)(364億円)が続きます。日本の美術品市場は、日本画、陶芸、工芸、掛軸・屏風、書など、日本の美術史に紐づいた多様なジャンルによっても支えられていることが、改めて分かります。生活文化や歴史からの影響を受けている日本の美術の奥深さが調査にも現れています。

ジャンル別の美術品・美術関連品市場規模*1

(単位：億円)(n=21,436)



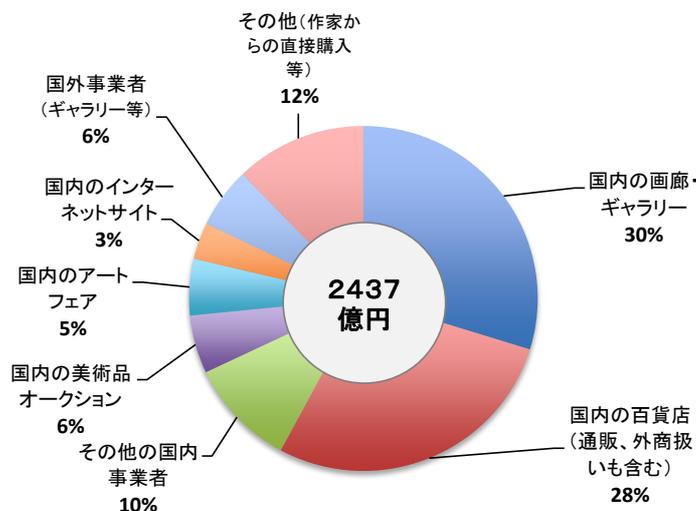
出所)「日本のアート産業に関する市場調査 2017」(一社)アート東京・(一社)芸術と創造

画廊・ギャラリーについて百貨店が主要な販売チャネルとなっている

美術品市場推計 2,437 億円を販売チャネル別に見ると、国内画廊・ギャラリー(30%、726 億円)に次いで百貨店(28%、685 億円)が主要チャネルとして機能しています。百貨店各社の発表によると、ここ数年衣料品などの売上げが減少していましたが、2017 年は富裕層向けの対応や、百貨店が得意とする外商による積極的な営業展開が、景気の回復とともに効果を上げつつあり、美術品の販売でも成果を挙げています。

チャネル別の美術品・美術関連品市場規模

(n=21,436)



出所)「日本のアート産業に関する市場調査 2017」(一社)アート東京・(一社)芸術と創造

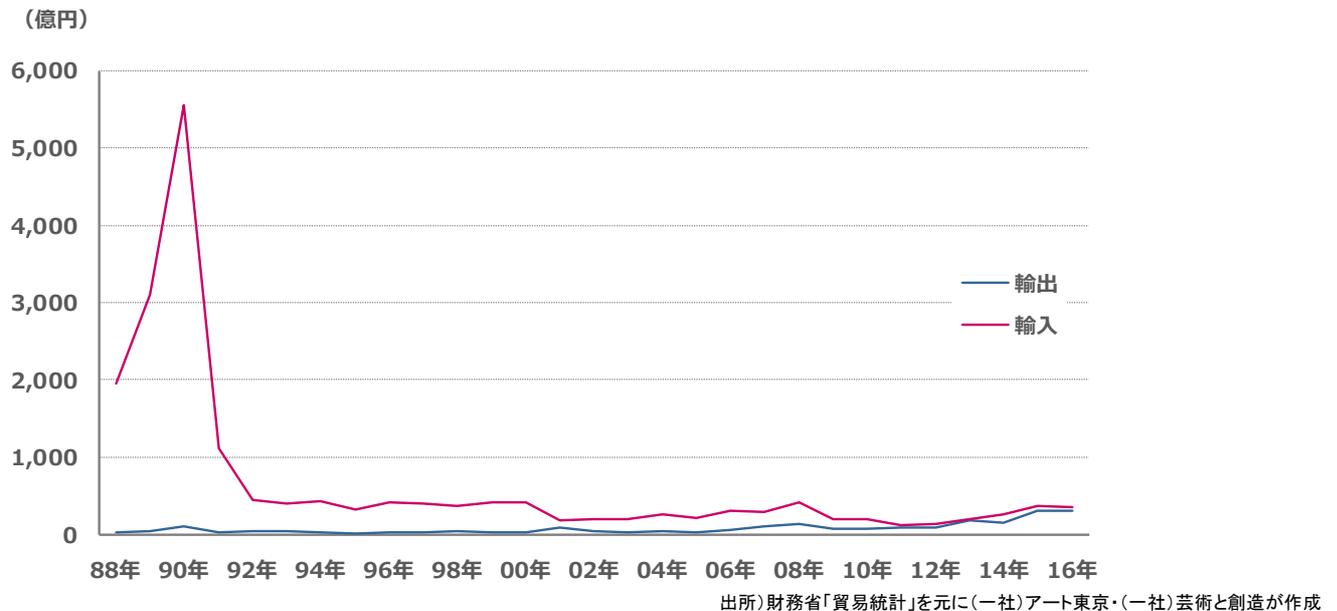
*1 ジャンル別の数値には重複が含まれるので、ジャンル別の美術品購入額合計はチャネル別の美術品購入額合計と数値が異なることに留意されたい。

美術品の購入に関する意識調査や貿易統計の数値を元に分析を実施

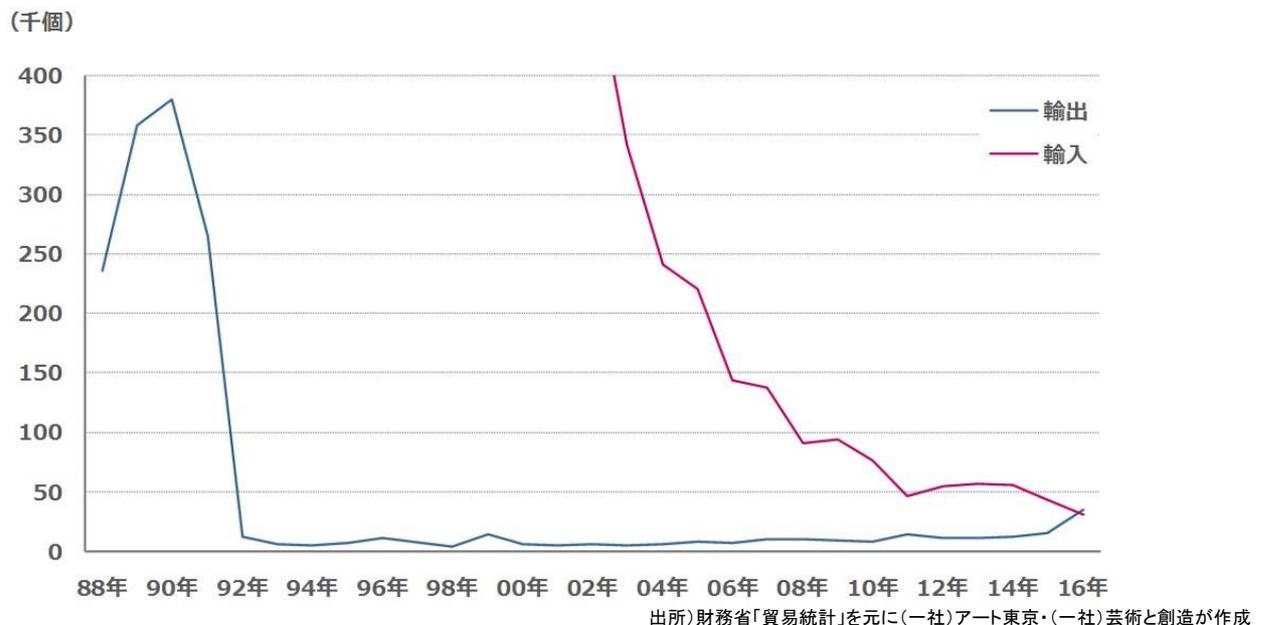
本調査ではアート産業に関する市場規模だけでなく、「美術品の購入に関する課題」、「美術品購買者・非購買者の意識調査」、「貿易統計による美術品の輸出入動向」なども調査・分析しています。

1990年には主に、ヨーロッパの印象派などを中心に美術品の輸入額は約5500億円にも上ったが、現在はむしろ、日本からの輸出額が伸びています。実際に輸出点数で見ると、2016年に美術品の輸出数(約35,000点)は輸入数(約30,000点)を上回りました。

美術品(書画)の輸出入額の推移



美術品(書画)の輸出入数の推移



アート東京は、日本のアート産業市場の実態を正しく把握し、今後の経済動向や社会情勢がアート産業に与える影響を明らかにするため、今後も継続的に調査していく予定です。調査結果は、国内外のアート産業関係者、アートに関わる他産業の事業展開や、改善の指標としても効果的に活用されることを目指すとともに、関係各機関と連携し、アート産業の発展が日本の新たな成長戦略へ繋がってゆくことに寄与して参ります。

上記の結果を含む「日本のアート産業に関する市場レポート 2017」の内容は、2018年3月に開催する「アートフェア東京 2018」と連動して順次公開してまいります。

調査概要

調査名称	「日本のアート産業に関する市場調査2017」 “Japanese Art Industry Market Research Survey 2017 ”
レポート名称	「日本のアート産業に関する市場レポート2017」 “Japanese Art Industry Market Research Report 2017 ”
主催	文化庁 / 一般社団法人 アート東京
調査協力	一般社団法人 芸術と創造
協力	一般社団法人 全国美術商連合会

本調査に関するお問い合わせ マーケティング&コミュニケーションズ 統括ディレクター: 墨屋 宏明(スミヤ)
リリースに関するお問い合わせ 広報担当: 島田 裕子(シマダ)/李 一(リ)(海外)
〒106-0041 東京都港区麻布台 1-9-12 飯倉台ビル4階 一般社団法人 アート東京
Tel: 03-5797-7912 / Fax: 03-5797-7913 E-mail: press@artfairtokyo.com